幼稚園の先生の今昔

及川ふみ

今年の四月にお茶の水女子大学から巣立つた学生のうち、家政学部児童学科からの一〇名と、教育学科の一名の一一名のものが、教育職員免許法の規定によつて、始めて幼稚園教諭の一級の免許状を、高等学校、中学校の教諭の免許状と併せて修得した。(基礎資格としての学士の称号を有すること、大学に於ける最低修得単位数としての、一般教育の三六単位、専門教科の保健体育、音楽、図画工作、のそれぞれの四単位、教職の二五単位復修による)

在学四年間にこれ等の学生たちは、児童学科としての専門に、他に履修すべき学科の多い中に、幼稚園教諭としての特別に必要なこれだけの単位を修得することに努力した学生たちのあつたことは直接幼稚園に関係するものとして誠によろこばしいことである。

学園を新らしく巣立つたものの常として、学問的の基礎知性は備えていても、実際の経験もなく、保育技術の習練は、実地保育にあたる今後の研究にまつものが多いので、従つてその道の先輩諸姉の心温い指導によつて育成されることに期待されるところが多い。

この卒業生のうち、今年すぐに幼稚園に就職するものは数人であるが、このコースがはつきり開かれて、しかも実際にそのコースを進むものがあることは幼稚園教育の進展のために何といつても力強い限りである。

これを考えるとき、思い出されることは、十数年前のことと記憶するが、倉橋先生を中心として、幼稚園の関係者たち相よつて、幼稚園教員の資格、ならびにその養成機関などについて種々討議したことがあつた。その時幼稚園教員の資格の一つとして、四年コースの大学修了の要望を強く提案したのは、今は病める前東京竹町幼稚園長の鎌田しんさんと私とであつた。これは幼稚園の教育の実際に携るものとして、その教員の実情に対して切実な要望であつたのである。これは勿論すべての幼稚園の教諭にのぞめるところではないことは、私共としてもよく理解していたのではあるが、四年コースを進んで幼稚園教員たらんとするものが一人でも、二人でもあればという望みと、これと同時にそれ等の人々に対して、大

学の門戸が開かれるということであつた。幼稚園教育の真の進展にはどうしても有数の教員の育成から始められるということである。

当時これはただの夢の如き理想でなく、現実にそくして緊急な要望ではあつたが、これがはたしていつの時には実現されるものやら、内心甚だ心細い見通しであつた。

それが昭和二十四年の教育職員免許法の実施によつて幼稚園教諭の一級免許状は四年コースの新制大学卒業者にして、しかも幼児保育に必須な専門教科目などの詳細な条件のあることであり、さらにその第一回の新らしい卒業生を昭和二十八年三月に現実に迎えることが出来たことである。

その昔といつても、二十年ほど前のことかと思われる。女高師を新らしく卒業して附属幼稚園の保姆に就職した若い先生の話であつた。卒業後はじめて郷里にかへつた際、この就職をきいた親類や近隣の人たちが不思議がつて、女高師を出ながら、どうして幼稚園の保姆などになるのかとただされ、これ等の人々に返答するのにとうわくして、幼稚園の先生の先生になつたのだといつてやつとその人々を納得させてきりぬけて来たとて、幼稚園の教員の資格などについて全然認識不足を悲観したりふんがいしたことを今日に新たに思い出されるのである。

又ある時はこんな話もあつた。夏季休暇などで郷里に帰省した幼稚園の先生が、田舎の駅で学割証明書で切符を求めると出札掛は学校の証明書を眺めて保姆さんですね保姆なんか学校の先生ではないから学割は通用しませんよ」とあつさりことわられて当時なにがしかの割引の恩恵にあづかられずふんがいして、今後は証明書に保姆はやめて教諭とかきこんでくれと要求したことなどもあつた。笑いごとの様であるが当時の実際話であつた当今でも、幼稚園教員の資格などのことはその専門のものでないとよく了解されていないのであるが、一昔二昔前はほんとにその認識の状態はひどいものであつた。一般社会人からは幼稚園教育の重要性の何たるかを全然考えられることなしに、幼稚園は単に子供を遊ばせる場所であり、それにつとめる保姆は子守同然の様に思われてその資格や、待遇について、いつも問題にされることもなく幼稚園を学校の外のものとして、埋れていた時をしみじみ思い出されて、今日ここに感深いものがある。

これからの新制大学卒業生を幼稚園の先生に迎える私共先輩は、その待遇問題の上に第二の宿題が待つていることを考えたいのである。